

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3610126124		
法人名	医療法人 松岡会		
事業所名	山城第一グループホーム		
所在地	徳島県徳島市山城西1丁目182-3		
自己評価作成日	平成26年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年2月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所は、台所・食堂・和室と狭い空間ではありませんが、アットホーム感があり1ユニット6名でありすぐに声が届き笑いの絶えない空間となっております。また壁・廊下には季節の飾り物・入居者様の思い出の写真・手作りをしております。また母体の医療機関との連携体制も取れており、利用者・家族様の希望に応じて当事業所で終末期を向かえる事も可能なため、安心して過ごして頂いております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、周辺に学校や公共施設のある市内の中心部に位置している。趣味や特技を持つ利用者には材料を調達したり、職員もともに楽しんだりして、日頃の利用者の支援を行っている。意思の表出が困難な利用者には、選択肢を示してうなずいてもらうなどして希望の実現に向けた支援へと繋げている。全職員で利用者の人格を尊重し、一人ひとりの意向に沿ったきめ細やかな対応に努めることで、利用者の暮らしを支えている。管理者は、重度の利用者にも外出の機会を設けることができるように、ボランティアの受け入れなども交えて取り組むように計画している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲示しており、毎朝申し送り時に唱和し日頃より意識して取り組んでいる。	朝礼時に、職員間で理念を唱和して共有化を図っている。理念に基づき、利用者職員が笑顔で生活し続けるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、秋祭りに参加させてもらったり、近くの文理大学やアステール徳島の周りを散歩している。また近所の方のお庭にお邪魔させてもらい、花や植木の観賞や趣味の写真を楽しんでいる。	日頃から事業所では、近隣を散歩したり、商店へ買い物に行ったりしている。また、近隣の大学の文化祭へ参加するなど、地域住民とふれ合う機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会・運営推進会議等で、家族・地域の方に理解してもらえるように取り組んでいる。併設しているDCの利用者と共に行事参加をしたり交流も行なっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の日々の生活状況を報告し、いろんな意見を出し合い検討し、サービスの向上に努めている。	年6回、運営推進会議を開催している。出席者から事業所の行事や地域との関わりなどについて意見を出してもらっている。出された意見について相互に話し合っている。利用者や家族には、順番で出席してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者から日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課に出向けない時もあるが、顔馴染みの関係を作り、実情報告をし協力関係を築いている	月1回、職員が市担当窓口を直接訪問して報告書を提出している。市担当者から密に連携を図るよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し身体拘束をしないケアをしている。職員間でも身体拘束になっていないか確認しあっている。	ミーティング等の機会に、職員間で利用者一人ひとりの支援方法について話し合っている。事業所として身体拘束をしないという方針を掲げ、利用者一人ひとりへの支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成している。職員間でも話し合いを持ち、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については学ぶ機会を持つ事が出来ていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時等には十分に時間を取って話し合いをし、説明を行なっている。またどんな小さな疑問点でも納得・同意して頂けるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が来所された時には、常に話しかけ気軽に要望・意見を言って頂けるように努めている。意見箱を設置し自由に投函できるようにしたり、家族会・運営推進会議で意見交換を行っている。	受付窓口意見箱を設置し、利用者や家族が自由に意見や要望を投函できるようにしている。また、家族の来訪時には、積極的に職員から話しかけて希望や意向の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて管理者と職員間で話し合いをし、責任者会議で運営者にその意見を伝えている。	毎月、職員間でミーティングを実施し、そのつどテーマを決めて話し合っている。日常的に、職員から代表者や管理者へ相談することのできる体制を構築している。また、同一法人の運営する各事業所の職員による合同会議もあり、その際に代表者へ意見や要望を出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員全体の勤務状況を把握している。また意見を聞き、話し合いを持てる環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加を促し、スキルアップに協力できる体制を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での研修に参加し、他事業所との情報・意見交換をし交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃からたくさんコミュニケーションをとり信頼関係を築き話しかけやすいような雰囲気になっている。利用者様からの相談・要望等には、ゆっくりと傾聴し受け止め対応している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時より家族様から困っている事・不安な事を親身になって聞き、電話・面会時に話し合い相談している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に会い、見学にも来て頂き、家族様と相談しながら本人様が早く馴染めるように配慮している。また本人の馴染みの物を持ち込んでもらっている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のペースに合わせてコミュニケーションをとり、楽しく過ごし支えあう関係を築いている。またなるべく食堂、談話スペースにて過ごして頂き安心して過ごして頂いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が相談しやすい環境を作り心がけ、共に支えあう必要性を理解して頂き、信頼関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者・家族様より聞いた今までの生活歴から、馴染みの人達に会ったり、馴染みの場所に出かけられるように家族様と連携し支援している。	事業所では、利用者が馴染みの商店へ買い物に行ったり、公園へ散歩に行ったりすることができるよう支援している。また、地域住民や友人、知人等の来訪もあり、継続的な交流を支えている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人それぞれの役割・居場所作り心がけ、利用者様同士が支えあえる環境作りに努めている。また回想法や懐かしい歌集を作り、共に楽しめるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し他の病院へ転移された利用者様の経過を間で見に行き、本人・家族様とのこれまでの関係性を大切にしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや・要望を職員全員で話し合っている。また家族様にも意見を頂き検討している。	家族の来訪時に意向を確認するようにしている。月1回のミーティング時には、利用者全員の支援のあり方について話し合い、家族から出された意向や職員の気づきについて共有化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様個人個人の生活歴を大切に、得た情報を職員全員で周知徹底し努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別申し送りノートを利用し、朝・夕の申し送りで内容伝達し状態把握を徹底している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを開催し、意見やアイデアを反映した介護計画を作成しています。家族様からも意見・要望を聞き、反映している。	3か月に1回、介護計画を見直している。本人や家族から出された意向に基づいて、職員や医師等の関係者間で話し合い、具体的な支援方法を反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施等を個別記録・申し送りノートに分かりやすく記入し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設に支援事業所・デイケア等があり、行事・レクリエーション参加等状況に合わせて柔軟な支援を行なっている。また週1回ではあるが、ボランティアでマッサージに来てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の希望により家族様の協力の下、散歩・買い物・美容院に出かけられるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体施設であるクリニックの医師・看護師とは密に連携をとり、緊急時の対応体制は整っている。定期的な他科受診については本人・家族様の希望を尊重し、個別の受診体制を確保している。	定期的に、同一法人の運営する医療機関の往診を受け入れて健康管理を実施している。また、利用者が他の医療機関の受診を希望する場合には、家族の協力を得たうえで支援している。同一法人の運営する医療機関のオンコール体制を整備しているため、夜間や緊急時に迅速な医療受診へと繋げることができる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で看護師が勤務し、日常の健康管理を行い常に相談・報告ができ、助言を受ける事ができる。医師との連携役も担っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は、職員が様子を見に行き主治医と情報交換や相談に努めています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にアンケートを取り、意識確認をし、看取りの方針を説明し、医師より十分な説明を行い、看取りに関する同意書をもっている。またその都度の状況・変化により対応する体制を取っている。	契約時の段階で、本人や家族に看取り介護について説明している。少人数の事業所であることなどから、職員は利用者寄り添ったケアに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生および緊急時マニュアルを作り対応している。夜間の緊急時には、医師・看護師への連携体制ができている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した非常訓練を実施している。避難時に着用するヘルメットや非常食も用意している。また非常食や飲料水も備蓄している。	年2回、消防署員の協力を得て、災害を想定した避難訓練を実施している。事業所が建物の3階に位置していることもあり、全職員に避難手順を徹底するなどして、迅速な安全確保に向けて取り組んでいる。災害時に備え、非常食や物品等を備蓄している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個性を見極め、その人それぞれに合った声かけ・対応を行なっている。	職員が利用者をお呼びするときには、名字で丁寧 に話しかけるなどして、一人ひとりを尊重した 支援を心がけている。また、本人の着たい衣 服を身につけてもらっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で、1人ひとりの利用者様が自分で決定できやすいに支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに沿って見守りながら生活を送り、体調に配慮しながら本人の気持ち を尊重し支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも利用者様の好きな服を選んで着てもらっている。また職員によるカットも行なっている。本人の希望により化粧品を使用している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お絞りを畳んでもらったり、食事の準備をして同じテーブルを囲み楽しい雰囲気 で食事をしている。またお膳拭き・片付け等日常当たり前のことを大切にしている。	同一法人の運営する併設の他サービス事業所で調理したものを事業所に運び込み、職員が盛り付けて利用者へ提供している。利用者にはおしぼりをたたんでもらうなどの役割を担ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量をチェックしている。またその人が食べやすいようにスプーンの使用・刻み・ミキサー食と調理している。食事量の少ない方は、院長の指示により栄養補給食品を摂ってもらっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には、口腔体操を行い唾液の分泌を促している。食後は、歯磨きの声かけを行い口腔ケアも行っている。希望者には、訪問歯科医に来てもらっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合った排泄介助を支援している。	利用者一人ひとりの状態に応じた排泄の支援を行っている。オムツを着用していない方には、利用者のリズムに応じた排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせた運動を実施したり、水分摂取の確保に努め自然排便を促している。また腹部のマッサージを行なっている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応入浴日は決まっているが、入浴希望がある利用者様については、いつでも入浴できるように支援している。また足浴を行っている。	少なくとも週3回は入浴してもらえるよう支援している。浴室の設備の都合などから入浴が困難な方には全身清拭を行うなどして清潔の保持に努めている。入浴を拒む利用者には、翌日に声をかけるなどの工夫を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを作り、ゆったりと休憩・安眠できるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケース毎に整理し、職員が把握できるようにしている。服薬確認・服薬介助を行い、症状の変化見られた時には、速やかに医師に報告し対応している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族様からの聞き取り・日々の生活の中から、その人に合った楽しみや、役割を見つけて支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物に行きたい、併設のデイケアにと、本人の希望に合わせて出かけられるように支援している。	事業所では、近隣の散歩や商店への買い物などの外出の機会を設けている。また、季節に応じた外出行事や家族との外出も企画している。外出の困難な利用者には、居室でその楽しみを感じてもらえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、事務所で預かっているが本人より要望がある時には、家族様と相談し合意を得た上で所持したり使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方もおられホーム内で電話をかけたり、かかってきたりと自由に使用してもらっている。手紙も自由に出すことができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所・和室・食堂と狭い空間ではあるが、アットホーム感があり、すぐに声の届く空間である。壁・廊下には、季節の飾り・写真作品等を飾り、明るく楽しい雰囲気作りをしている。	事業所の共用空間には、職員手作りの季節の飾り付けや写真等を飾っている。暖かみのある環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室でテレビを観たり、ソファでくつろいだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂けるように、慣れ親しんだ物を自由に居室内に持ち込んでもらっている。	居室に、利用者の使い慣れたラジオや衣類等を持ち込んでもらっている。家族の写真を飾っている方もおり、利用者一人ひとりの快適な生活環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室入り口には写真の表札を設置し目印としている。		